

群馬県立女子大学 FLRI Newsletter

Foreign Language Research Institute

外国語教育研究所だより

Vol.22 2013.3.21



明石康所長講義

大使リレー講座

11月20日、明石康所長は「大使リレー講座」の講師として、「私と国際交渉—三つの場合」というテーマで講義を行いました。国連の仕組み、安全保障理事会、事務総長、旧ユーゴスラビア問題、カンボジア和平についてなど、約40年の国連生活から所長が経験したこと、従事した交渉について、また、現在取り組んでいるスリランカにおける平和構築についての講義の後は質疑応答の時間となりました。

*「大使リレー講座」とは外交や国際ボランティアの第一線で活躍している方々をお招きし、外交交渉や海外活動の実情や体験をお話いただくことにより、国際理解を深め、平和について考えることを目的に本学で行っているものです。

講義（抜粋）

拒否権は安保理の常任理事国である5つの大国だけに与えられている不平等な権利だと思われるかもしれないが、必ずしもそうではない。国連が行う決定の背後に大国の支持がきちんとあるようにするために、拒否権は存在すると考えることができる。国連の決定には力の背景、権威の背景があるので、拒否権は大国の権利を守るだけでなく、大国の支持が得られないような問題に小国が巻き込まれることがないように保障するものだと考えることもできる。

国連事務総長には歴代それぞれ立派な人がなっているが、優れた事務総長であるためには、演説が上手いとか、英語が流暢である必要はない。その人がいかにきちんと国際情勢を見ているか、正確に分析しているか、公平であるかということが大切である。

国連にはできることもあるし、できないこともある。それは色々な状況、人によるものである。国連に全てができると思ったり、それは幻想である。では何もできないかということそうではなく、できることもある。どういう時に何ができるかを冷静に判断するのは、やはり優れた国連の人間、役人たちの仕事であると言える。

質疑応答（抜粋）

受講者：尖閣諸島問題で関係が悪化している中国と和解するためには何をすればよいか。

明石所長：尖閣問題については、日本、中国双方が共に利益を得るプラスサムの解決策を共に考えていくこと。お互い冷静になれば一緒に利益を得る道というのは発見可能ではないか。少なくとも話し合いをしてみる価値はあるだろう。また、政府間の話し合いは時に難しくなるが、国民同士の交流をもっと盛んにすれば、お互いの国に対するイメージが変わってくるので、直接のコミュニケーションを盛んにすることが非常に大切であると思う。

グローバル人材育成事業

「明石塾」

2月2日、明石塾の研修において、明石所長は塾生に向けて英語で講義を行いました。

塾長講義（抜粋）

日本は住みやすい国であり、私たちはそれを誇りに思っている。ただ、問題は平和すぎる。故に私たちは日本の生活に満足し、多くの問題を抱えるアジアの国々やアフリカ、中東の人々のことを忘れてしまう。確かに日本は平和であるが、それが本当の平和なのか、表面的なものなのかが問題である。日本だけが安全で平和であるという間違っただけ考えに溺れないように。我々が社会の中で、他の個人から完全に孤立してはやっていけないように、他国から孤立してやっていける国は無い。我々が家族のつながりを持っているように、我々は皆何らかの形で他の国々につながっている。自国の問題は他国にとっても共通の問題である。全ての国は他の国々につながっているということを忘れてはならない。

病気や家族の問題等我々は多くの問題を抱えているけれど、人生は生きる価値がある。毎日身の回りで起こることから非常に多くのことを学ぶことができる。だから我々の世界をできるだけ刺激的で広いものにしよう。狭い世界をもっと大きくてより刺激的なものにできるかどうかは全て、みなさんが行動範囲の中で何を選ぶかにかかっている。



修了式塾長式辞（抜粋）

3月5日、明石塾第11期生の修了式と成果発表会が行われました。前半の発表会では、16名の塾生がこれまでの研修で学んだことを英語で発表しました。

明石塾も第11期生の修了式を迎えることになりました。まず8か月間学業と共に明石塾の講義を受け、熱心に学ばれた16人の塾生の皆さんに心からお祝いの言葉を申し上げたいと思います。また、塾生の父兄をはじめ家族の方々が一生懸命塾生を支えていただいたことにもお礼の言葉を述べたいと思います。

11期生の成果発表も素晴らしかったですが、11年間にわたる豊かな蓄積というものが教育的にとっても効果を上げてきたということが我々の前に如実に示されて、私は皆さんの発表を心から楽しく見させていただきました。

この明石塾での経験を皆さんが一生懸命正面から受け止められ、それを自分の血とし、肉にしてこられたということが具体的に示されたと思います。明石塾が塾生一人ひとりの生活の一部になり、これからも皆さんの豊かで変化に富む生活の上で、その変化、成長を支える重要な一部を構成するのではないかと私は期待しておりますし、例えば苦しい時、悩みがある時、迷う時、くじけそうになる時、この明石塾でのいろいろな経験を、またここで培われた友情を思い出し、勇気づけられることを心から祈りたいと思います。

今年は特に寒さが長く、厳しい冬でありましたが、ようやく春の気配が感じられるようになってきました。これから人生の中で、長く厳しい冬が訪れることがあると思います。しかし必ずやその後は春が待っているはずで、ですから春の可能性について、希望や夢を失うことなく、皆さんが人生のチャレンジに勇気を持って取り組んでいかれることを心から念じたいと思っております。

日本にとっても、世界にとっても、大変な変化が待ち構えていると思います。気候変動その他についても我々が今まで経験しなかったようなことが起きるかもしれません。それだけに我々一人ひとり、また地域社会にとっても、国にとっても、世界にとっても皆で語り合い、論争し合い、悩みながら新しい道を発見していくことは必要だと思っております。

グローバルなビジョンを持ち、将来にひるむことなく立ち向かう、そういうたくましい人材が今後ともここ群馬の地から育つことを私は確信しております。

研修報告

明石塾では次のとおり後期研修を行いました。

日付	午前	午後
10月27日(土)	英語研修13・14	東京フィールドワークまとめ、テーマ討論②
11月10日(土)	英語研修15・16	英語研修17・18
11月17日(土)	英語研修19・20【公開】	講義⑨【公開】中村俊郎氏 中村プレイス株式会社 代表取締役社長
12月15日(土)	英語研修21・22	海外研修準備
12月23日(日)	海外研修準備	
1月4日～10日	海外研修(マレーシア、シンガポール)	
1月12日(土)	海外研修まとめ	
2月 2日(土)	英語研修23・24	講義⑩ 明石塾長
2月 9日(土)	研修まとめ、成果発表会準備	研修まとめ、成果発表会準備
3月 2日(土)	研修まとめ、成果発表会準備	研修まとめ、成果発表会準備
3月 5日(火)		研修成果発表会、修了式



公開講義



成果発表会

海外研修報告

1月4日(金)から10日(木)までの7日間、マレーシア・シンガポールで明石塾海外研修が行われました。両国における「多文化主義の現状」について、教育施設や企業訪問、市内フィールドワーク、農村地域でのホームビジットを通して体験的に学習しました。高校・大学訪問では、明石塾研修について英語でプレゼンテーションを行う機会もあり、お互いの文化社会や世界情勢について意見交換をし、交流を深めました。



明石杯高校生英語コンテスト

今年度も群馬県教育委員会、群馬県高等学校教育研究会英語部会との共催で明石杯高校生英語コンテストを行いました。県内各地区予選を通過した63名が10月26日、本学で日頃の英語学習の成果を競い合いました。コンテスト終了後、初の試みとしてディベート・デモンストレーションが行われ、中央中等教育学校のチームSPARKと共愛学園高等学校のSt. Arrowsが「日本の大学は9月入学にすべきか」について、英語でディベートを行いました。続く閉会式では10周年を記念して明石所長の講演がありました。各部門の入賞者は次のとおりです。



部門	レシテーション	スピーチ	プレゼンテーション	海外滞在経験者スピーチ
1位	堀江ムスタファ (東農大第二 1年)	川合 愛美 (前橋女子 2年)	三宮 柁名 (中央中等 5年)	北爪桃和音 (中央中等 4年)
2位	美澤 呂依 (共愛学園 1年)	田村 瑞樹 (沼田 2年)	青木 楓 (高経大附属 2年)	蝶谷 貴恵 (新島学園 2年)
3位	只木日向子 (太田女子 1年)	小笠原伊武希 (中央中等 6年)	上原 大輝 (中央中等 4年)	須田 健人 (中央中等 5年)
4位	金子木の実 (高商大附属 1年)	山田 美香 (高崎女子 1年)		
5位	山下 実緒 (桐生南 3年)	牧 芽来美 (吾妻 1年)		
6位	松本 真季 (高崎女子 2年)	飯塚 有希 (渋川女子 2年)		
特別賞	黒田奈緒子 (館林女子 3年)	屋比久ケンジ (前橋西 2年)	藤本 ミケイラ エミ (太田女子 1年)	



小学校英語活動支援事業

昨年度に引き続き、館林市、草津町と連携して小学校の英語活動支援を行いました。

草津小学校では、11月27日に6年生の研究授業が行われました。また、1月25日は館林第十小学校において小学校英語活動推進事業研究発表会が行われ、1年生、3年生、6年生のそれぞれ1クラスで公開授業が行われました。

ティーム・ティーチングによる先生方の熱心な指導のもと、児童の皆さんは発達段階に応じた多彩な英語活動に取り組み、楽しみながら、日本語と英語の違いを理解し、コミュニケーション活動の基礎を身につけています。



大学高校英語教育連携事業

今年度は県立沼田女子高等学校、県立伊勢崎高等学校、高崎市立高崎経済大学附属高等学校と連携し、英語コミュニケーション研修を行いました。

2月5日に行われた伊勢崎高校グローバルコミュニケーション科2年生と2月19日の沼田女子高校英語コース2年生の研修では、聴衆を説得するプレゼンテーションについてその効果的な方法をグループごとに検討し、発表を行いました。両校とも学んだことをもとに今後更に学習を重ね英語によるディベートへ発展させたいとのことでした。



*高崎市立高崎経済大学附属高等学校の研修については、研究所だより第21号に掲載のとおりです。



英語教育講演会

12月22日、研究所では英語教育における小中高大の連携について、その方策を具体的に考え、模索する機会を設けるため、英語教育講演会を開催しました。講師の早稲田大学商学大学院教授 神保尚武先生は「日本の英語教育を問うー小中高大連携を視野に入れてー」と題し、Can-doリストやポートフォリオを紹介しながら、日本の教育政策の成果や課題について話しました。質問や意見も多く出され、参加者はコミュニケーション能力の育成を柱とした、教育段階の枠を超えた連携の必要性を再認識しました。

グローバルカフェ

今年度12年目を迎えたグローバルカフェは、5月10日(木)～3月14日(木)まで29回行われ、年間の参加者数は延べ1,455人でした。多数のご参加ありがとうございました。第Ⅱ期、Ⅲ期のそれぞれ最終日には第Ⅰ期同様かフェススペシャルを開催し、県内のALT3名と本学国際コミュニケーション学部生3名が英語によるプレゼンテーションを行いました。留学先での経験や今後の抱負、興味・関心を持っていること、文化の違いなど示唆に富んだ内容で、発表後は参加者の皆さんとの活発な質疑応答が行われました。プレゼンターの皆さん、ご協力ありがとうございました。

平成25年度の開催については4月中旬以降本学のホームページでご案内する予定です。どうぞご確認ください。引き続き皆様のご参加をお待ちしております。



留学支援事業

留学帰国報告

本学の「海外留学支援制度」を利用し、毎年多くの学生が留学をしています。学生から帰国後寄せられた感想文より一部をご紹介します。



クイーンズランド大学（オーストラリア）短期留学 文学部英米文化学科2年 E.M.

クイーンズランド大学で約5週間語学研修を行った。授業では主に文法を学んだが、問題を解くだけでなく、それを使ってクラスメイトと会話をする時間が多く設けられている。はじめは苦労したが、今では自分から積極的に話しかけ、会話を楽しむことができるようになった。また、ホームステイでは現地のことを理解し、人々との交流を深めることができた。

私は、海外研修に参加して本当に良かったと実感している。英語力が向上し、異文化理解が深まった上に、高いモチベーションを持って英語を学ぶ他国の友人をたくさんつくることができた。刺激を受け、共に学びながら英語を通して世界中の人々につながる素晴らしさを感じた。この貴重な経験を忘れず、これからも英語能力を向上させるつもりだ。

カリフォルニア州立大学 サンバナディーノ校（アメリカ）長期留学 国際コミュニケーション学部3年 R.A.

私はこの留学を通して、たくさんのことを学びました。全く知らない土地、更に言葉の壁もあり、アメリカで過ごした1年は思っていた以上に大変なものでした。特に大変だったのは言葉です。私は完璧な文法にこだわり、間違えることが怖くて発言していなかったことに気がきました。間違いを恐れずに会話をするのが次第に上達し、色々な表現が覚えられました。練習の機会を増やすためアメリカ人の友人をつくることも重要でした。生活面では文化の違いに何度も戸惑いました。分からないことに直面すると、いつも泣きそうになり、手探りの状態でしたが、新しいことを覚えるたびに成長し、やればできると自信ができました。

今回の留学を通して私は色々なことを経験し、成長できたと思います。自分自身に自信が持てるようになりました。

